

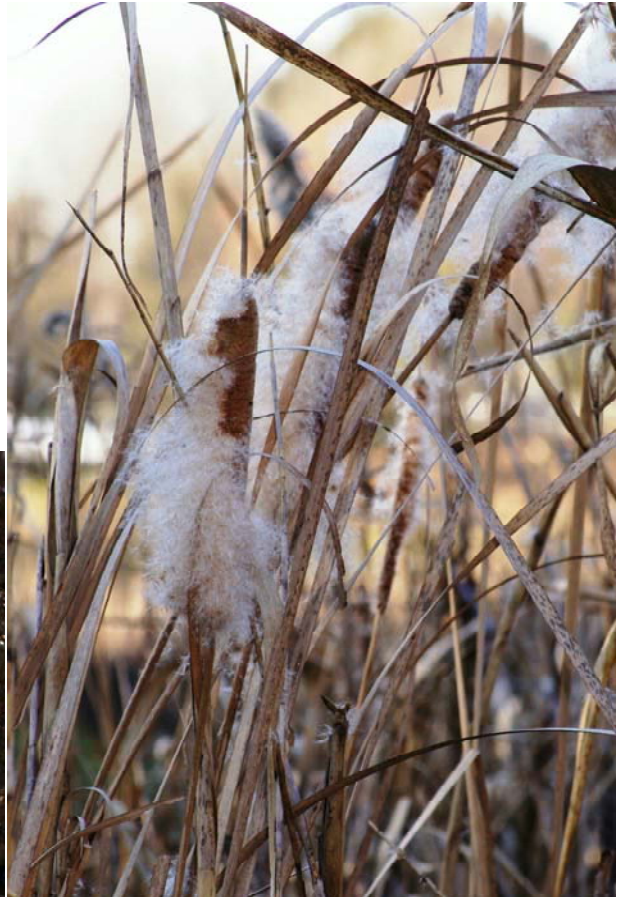
牛久：学校周辺に見る自然

第22号 みずべ公園（ひたち野西近隣公園）

2016年1月28日発行

< 冬の自然観察 ～みずべ公園・植物編 >

皆さん、こんにちは。前号に続き、冬のみずべ公園・植物編です。



池に何やら白いものが…(左上)。→ヒメガマのタネでした(左下)。穂から飛び出すヒメガマのタネ(右)。

春にはヒキガエルのおたまじゃくしでまっ黒になる池に、雪のようにまっ白に何かが積もっていました。近づくとそれは、ヒメガマのタネ。風が吹くとふわふわと飛んでいきます。穂の長さ1 cm あたり1万個のタネがつまっているのだそうです。



風でタネが飛び、仲間を増やすヨシ(左)とイヌシデ(右)。

他にも、風で飛んでいくタネがありました。多いのはヨシとイヌシデ。種子散布のいろいろな例は、過去の記事をご覧ください。



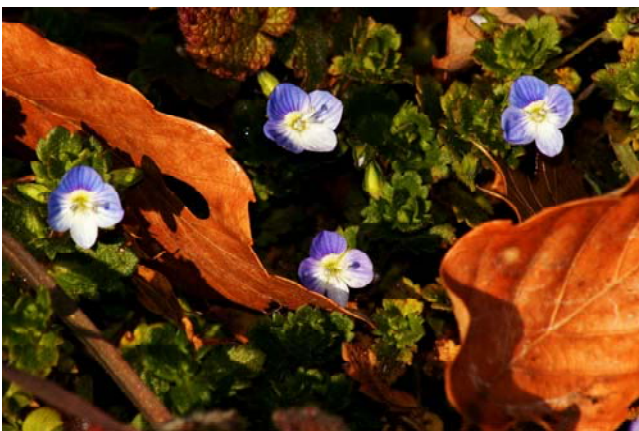
アスファルトを割って葉を広げるタンポポ(左)と、固い土から葉を広げるオニノゲシ(右)。

動物たちにも厳しい冬を乗り越えるためにいろいろな工夫が見られましたが、植物も同様です。種子で冬をこすというのもそうですが、タンポポやオニノゲシなどが地面に葉を広げるのもそう。その姿がバラの花に似ているところから、「ロゼット」とよばれます。



毛皮に身を包むコブシの花芽(左、小さいのは葉芽)と咲く準備をしているハンノキの花芽(右、上に小さく伸びているのは雌花の芽、下にさがっているのは雄花の芽、こげ茶の松ぼっくりのようなのは昨年の実)。

樹木の冬芽もそう。何枚もの鱗のような小さな葉で包まれるものや、厚い毛皮のようなものでおおわれたもの、ねばねばの液でおおわれたものなどいろいろです。これも、過去の記事を参考にして下さい。



陽射しがあれば冬でも花を咲かせるオオイヌノフグリ(左)と、今ごろきれいに紅葉していたヤマボウシ(右)。

中には、オオイヌノフグリなどのように、ま冬でも陽射しさえあれば花を咲かせるものもあります。また、年々紅葉が遅くなっているそうですが、ヤマボウシが今ごろきれいに紅葉していました。

最後に、冬の植物観察におすすめなのが樹皮の観察。すでに葉を落とした落葉樹でも、樹皮と冬芽を見ると何の木なのか分かってしまうものがあります。春～秋に観察している木なら、もっとはっきりしますね。お気に入りの木が、冬にはどんな姿を見せているか比較してみるのもおもしろいですよ。



ク リ



コ ナ ラ



ク ヌ ギ



イヌシデ



ネムノキ



ゴンズイ



エゴノキ



ハンノキ



コブシ



ヤマザクラ



ウワミズザクラ



ウワミズザクラの小枝

よく見ると、それぞれ特徴がありますね。木の年齢などによっても違いますから、比べてみましょう。さらにウワミズザクラでは、芽のつけ根がごつごつとふしくれ立っている枝も見られます。まるいあとが1～数個ついていますが、これはその年伸びた枝が落ちたあと。2年目以降の枝でその年伸びた枝が葉をつけたまま落ちるため、このようなあとが残るのです。 【理科支援員：宮内】



落枝のあとが3つあるウワミズザクラ。